

気になる子供を伸ばす教師の働きかけと 支えるクラス作り

K5717030 宮野永里雅

1. 論文構成

はじめに

第1章 本研究の主張と展開

- 1-1 本研究の主張
- 1-2 本研究の展開

第2章 「気になる子供」を取り巻く教育の現状

- 2-1 自己の体験から感じる「気になる子供」の存在
- 2-2 「気になる子供」がクラスの中にいると示す事象

第3章 「気になる子供」への対応と支えるクラス作り

- 3-1 「気になる子供」をこう考える
- 3-2 10の気になる行動への具体的な手立て
- 3-3 「気になる子供」を支えるクラスを作る

第4章 宮野流 「気になる子供」との向き合い方

- 4-1 宮野流 「気になる子供」と向き合う際の5つの心得
- 4-2 「気になる子供」を想定した具体的な教師の働きかけ
- 4-3 子供と子供を繋ぐクラスの実践提案

第5章 「気になる子供」を伸ばす教師になるために

まとめと今後の課題

- 5-1 本研究のまとめ
- 5-2 今後の課題

引用・参考文献一覧

おわりに

2. 研究動機

私は、気になる子供への対応を学びたいと思った。気になる子供としては、例えば、授業中よく私語をする、問題行動を繰り返す、友達とうまくコミュニケーションが取れない、立ち歩く、教師に反抗する、家庭環境等の要因で心に闇を抱えているなどがあげられる。

なぜ、私がこのテーマを選んだのかというと、理由は主に二つある。

一つ目に、まずこのような気になる子供を聞いたとき、自分自身教師になってどう対応したらよいのかが分からないからだ。実際、自分が教育実習で配属されたクラスで、気になる子供がたくさんいた。しかし、そのような子供を目の前にしたとき、どう対応してよいのかわからず、何もできなかった。先生方も対応に困っておられる様子が見受けられた。

二つ目に、学級経営を円滑に行う上で、気になる子供への対応は必要不可欠だと考えたからだ。気になる子供の対応を何も行わず、放っておくとその子供を中心に、クラスが荒れていくように思う。そのため、気になる子供への対応を行うことは、学級経営を行う上で、最重要事項の一つだと考えた。

赤坂真二先生は、学級には三層構造があると述べられている。その三層とは、教師に協力的な協力層・どちらでもない中間層・非協力層の三つだ。この三層が2：6：2の割合であると述べている。この非協力層に、気になる子供は属していると考え。赤坂先生は、2割の非協力層の居場所を作るために、残り8割の層に働きかけ、居場所を作ってあげることが学級経営において大切だと述べている。この考え方に感銘を受け、気になる子供を伸ばし、支える学級作りを学びたいと考えた。

3. 各論

第1章 本研究の主張と展開

小学校・中学校教育実習やインターンシップで実際の教育現場を見る中で、気になる子供が必ずクラスに数名いることに気づいた。また、調べてみたところ文部科学省の調査で特別な支援を必要とする子供が40人学級に2・3人いることが分かった。このことから、気になる子供への対応を学ぶことは教師にとって不可欠であると考えた。

そこで、本研究では、「気になる子供を伸ばす教師の働きかけ」を探究し、著名な先生方の研究から考えた気になる子供と向き合う際の5つの心得に沿って具体的な教師の働きかけを作成する。そして、子供と子供をつなぐクラス実践を提案し、気になる子供を伸ばすために教師ができることを考察していく。

第2章 気になる子供を取り巻く教育の現状

本研究を行う意義や、私自身が実際に出会った気になる子供の例を挙げ、気になる子供を取り巻く教育の現状と課題を明確にしていく。気になる子供に関する書籍の多さは、現場の教師が気になる子供への対応に悩むことが多いことの表れであり、文献や私の教育実習で

の経験から、気になる子供への対応の難しさとは何かを考察し、課題を提示することで、本研究における指針を示し、後の章で課題を改善できるようにしていく。

第3章 気になる子供への対応と支えるクラス作り

赤坂真二先生、玉置崇先生、和田裕枝先生、松尾英明先生、金大竜先生の文献やDVDから、気になる子供とはどのような課題を抱えているのか、気になる子供への対応の極意、具体的な教師の働きかけ、また気になる子供と周りの子供をつなぐクラス実践を取り上げ、考察し、第4章において反映させる。

第4章 宮野流 気になる子供との向き合い方

第3章であげた気になる子供への対応の極意を踏まえ、自分なりに「5つの気になる子供と向き合う際の心得」を作成し、気になる子供を想定した具体的な教師の働きかけや、クラス実践を提案する。

第5章 「気になる子供を伸ばす」教師になるために まとめと今後の課題

本研究を通して、「気になる子供への対応」において教師にとって必要な心構えは何かを明確にし、私が考える気になる子供と向き合う際の心得を5つ明記する。また、本研究はこの卒業論文でとどまることなく、実際に現場にでて、たくさんの子供と向き合っていく中で、より追究していく余地のある分野である。そのことを踏まえ、今後の課題を挙げ、継続的な研究を行えるようにしていく。

4. 結論

第4章で、第3章であげた気になる子供への対応の極意を踏まえ、自分なりに5つの気になる子供と向き合う際の心得を作成し、気になる子供を想定した具体的な教師の働きかけや、クラス実践を提案した。

- 心得① 気になる行動に注目しすぎず、その子供の良さや行動に隠れた思いを知る努力を！
- 心得② あなたのことが好き、あなたのことを信じている、もっと知りたいという思いを行動に！
- 心得③ 変わることを求めすぎない。ゆっくりでいいよという気持ちで！
- 心得④ 気になる子供が輝ける場面を作る
- 心得⑤ 気になる行動をどう改善していけばいいのか一緒に考える。そして、変化を観察し、前向きな言葉かけを継続的に行う。

この5点だけを意識すれば、気になる子供の対応が必ずしもできるというものではないが、気になる子供を伸ばすために、むやみに叱ったり注意したりするのではなく、気になる子供と向き合う際は、この5点に意識する必要があると考える。教師が1人1人の子供の

良さやその子らしさを認め、まっすぐ向き合っていくことで、子供たちは自分の良さを伸ばしていくことができると考える。そこで、これから出会う子供たちとまっすぐ向き合い、教師として目の前の子供を伸ばすためにできることは何か考え学び続ける教師になりたい。

引用・参考文献

- ・「気になる子を伸ばす指導」(赤坂真二 編著)
- ・「マンガでわかる『気になる子』のいるクラスがまとまる方法」(赤坂 真二 著)
- ・「教師の『困った』を解決する授業術」(玉置 崇・和田 裕枝 著)
- ・「ピンチがチャンスになる『切り返し』の技術」(松尾 英明 著)
- ・「一人ひとりの凸凹に寄り添う『気になる子』『苦しんでいる子』の育て方」(金 大竜 著)
- ・「クラスがうまくいく魔法の習慣」(金 大竜著)
- ・明日の教室 DVD シリーズ 3 「勇気づけの学級づくり一つながる道筋」(赤坂 真二)
- ・明日の教室 DVD シリーズ 57 「子供から始まる教育の在り方を考える」(金 大竜)